

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国08年10月) ～コアCPIは年明け以降0%台へ

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コアCPI上昇率は4ヵ月ぶりに1%台に低下

総務省が11月28日に公表した消費者物価指数によると、10月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比1.9%となり、上昇率は前月から0.4ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：1.9%、当社予想も1.9%）通りの結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比0.2%（9月：同0.2%）、総合は前年比1.7%（9月：同2.1%）であった。

消費者物価指数の推移

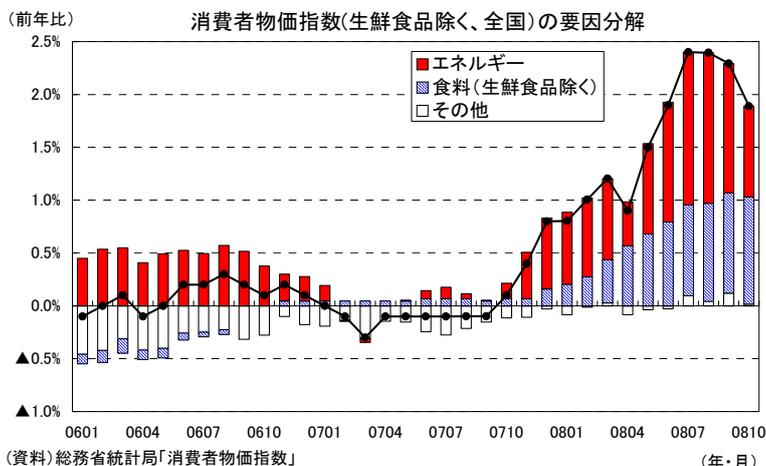
	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
07年 7月	0.0	▲0.1	▲0.5	▲0.1	▲0.1	▲0.3
8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	▲0.3	0.0	▲0.2
9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3
10月	0.3	0.1	▲0.3	0.1	0.0	▲0.3
11月	0.6	0.4	▲0.1	0.3	0.1	▲0.1
12月	0.7	0.8	▲0.1	0.4	0.3	▲0.1
08年 1月	0.7	0.8	▲0.1	0.3	0.4	0.0
2月	1.0	1.0	▲0.1	0.4	0.4	▲0.1
3月	1.2	1.2	0.1	0.6	0.6	0.1
4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	2.1	2.3	0.2	1.4	1.7	0.5
10月	1.7	1.9	0.2	1.2	1.5	0.4
11月	-	-	-	1.1	1.1	0.2

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

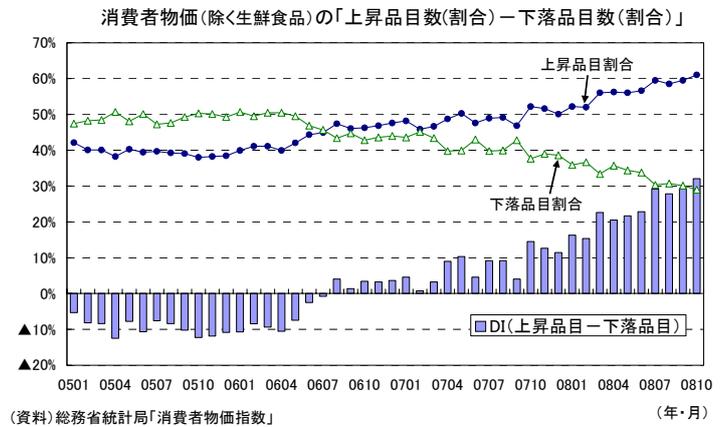
コアCPIの内訳を見ると、ガソリン価格の前年比上昇率が9月の20.7%から10.2%に鈍化し、コアCPIへの寄与度は9月の0.56%から0.28%へと縮小した。

一方、値上げが続く食料品（生鮮食品を除く）は前年比4.5%（9月は同4.2%）となり、11ヵ月連続で上昇幅が拡大した。パン（前年比16.6%）、麺類（前年比14.2%）、油脂（前年比24.3%）など、原材料高の影響を直接受けやすい製品が引き続き前年比二桁の高い伸びとなっているほか、調理食品（9月：前年比4.5%→10月：同4.8%）、外食（9月：前年比2.0%→10月：同2.0%）などでも上昇率が高まる傾向が続いている。

コアCPIのうち、エネルギーによる寄与が0.86%（9月は1.22%）、食料品が1.02%（9月は0.95%）、それ以外が0.02%（9月は0.12%）であった。



消費者物価指数の調査対象 585 品目（生鮮食品を除くと 524 品目）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると（中間年見直しで追加された 3 品目はカウントせず）、10 月の上昇品目数は 318 品目（生鮮食品を除くベース）と、9 月の 310 品目から増加し、上昇品目数の割合は 6 割を超えた（61.0%）。下落品目数は 151（9 月は 157）となり、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は、9 月の 29.4%から 31.0%へと上昇した。コア CPI の上昇率はガソリン価格の急低下を主因として 2 ヶ月間で 0.5 ポイント低下したが、物価上昇の裾野はさらなる広がりを見せている。



## 2. コア CPI は年明け以降 0%台へ

11 月の東京都区部のコア CPI は前年比 1.1%となり、上昇率は前月から 0.4 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：1.3%、当社予想も 1.3%）を下回る結果であった。

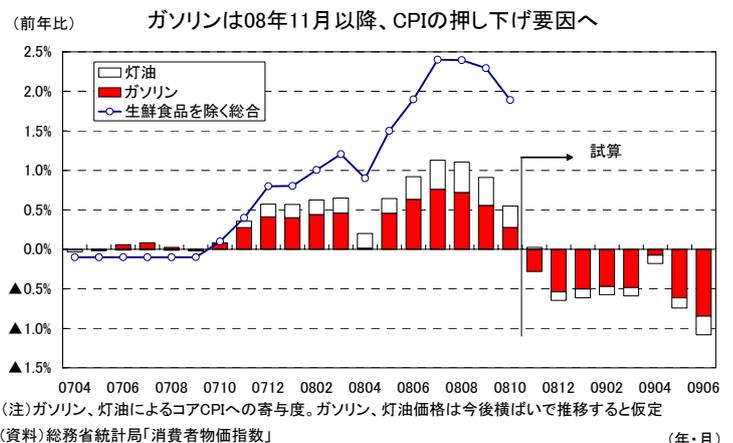
食料品（生鮮食品を除く）は前年比 3.8%（9 月：同 3.9）と高止まりしたが、ガソリンの上昇率が前年比▲12.2%（10 月は同 9.3%）と 14 ヶ月ぶりにマイナスに転じた。ガソリン価格の低下だけでコア CPI の上昇幅は前月よりも 0.22 ポイント押し下げられた。

7 月中旬に 1 バレル＝140 ドル台後半まで上昇した原油価格（WTI 先物）は、米国をはじめとした世界経済の減速に伴う需要減退観測の高まりなどから、足もとでは 50 ドル台とピーク時の半分以下の水準にまで低下している。ガソリン店頭価格（レギュラー、石油情報センター調べ）はピーク時の 185 円程度から直近では 120 円台まで低下している。最近の円高の進展も加わって、値下げの動きは今後も続くだろう。

全国は、消費者物価指数に占めるガソリンの割合が東京の 3 倍近く（全国：224/10000、東京：84/10000）となっているため、ガソリン値下げによる影響が大きく、11 月にはコア CPI 上昇率は前年比 1%程度へと急低下することが見込まれる。

また、これまでは物価上昇の裾野は広がりを見せてきたが、今後は景気低迷に伴う需給緩和が物価下落圧力となってこよう。

現時点では、コア CPI 上昇率は 09 年 1-3 月期には 0%台、4-6 月期にはマイナスに転じると予想している。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。